令和４年度　川北町立川北小学校　学校評価計画　　年度末評価

		評価項目（◎重点）	具体的取り組み	評価指標	達成度判断基準	備考	評価		A	B	C	D	□結果の検証　◆課題	3学期以降の具体的な取組及び次年度に向けて
1	（教職員の学校運営参画意識の高揚）①組織的な学校運営	**＜学力向上ロードマップに基づく組織的実践＞** ・校務分掌担当者と主任、主任間の積極的な意見交流による取組。 **◎定期的な検証、改善の確実な実施。（PDCA）**	定期的な検証を行うために、目標とする姿の具体を全職員で共有するとともに、実施後の姿で検証を行っていく。不十分な点の克服に向けての改善策を提示する。	【満足度指標】 学力向上ロードマップに基づき、全職員が学校経営方針の具現化に向け、積極的に組織運営に携わって取組の改善を進めている。	学力向上ロードマップに基づいて積極的に分掌業務に取り組み、具体的な改善を進めている教師の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	A	100%	56%	44%	0%	0%	□半数以上の職員がA評価となっている。主任の先生方は、運営会議を通して、参画意識が高まっていると感じる。 ◆B評価の職員が半数近い。担当する取組に対して、十分な結果がでてないことが反映していると考える。校長ビジョン達成に向けて、具体的な児童の姿の共有をより図る必要がある。	○結果を児童の姿の変容でとらえられるようにすることと最終学年の目指す姿を全職員で共通理解することを年度当初に行い、全職員での共通実践につなげていく。ベクトルをそろえるために、学期毎に児童の姿で検証し、改善につなげる。
2		**＜「チーム学校川北」を実現する学校風土の形成と人材育成＞** ・協働して学び続ける職員集団。外部研修への積極的参加。 **◎人材育成による業務改善の推進。** ・高い危機管理意識による安全安心な学校づくり。	業務改善の推進のため、若プロの活用及び主任会議の場で計画的に人材育成を行う。また、見通しをもって業務を行い、効率化を図る。	【満足度指標】 自分の目標とする教師像に近づくため指導力を向上させ、業務改善に繋がった教師の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	自分の目標とする教師像に近づくため指導力を向上させ、業務改善に繋がった教師の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	A	100%	50%	50%	0%	0%	□A評価が増えた。2学期は、交流授業の参観や職員会議後の時間を活用した研修報告等で、学ぶ機会が多かったと考える。若プロにおいては、自分の学びの成果と課題をアウトプットすることで次の学びへとつなげることができた。また、児童について話したり相談したりすることが増えた。 ◆今後も時間の確保を考えていく。個別で取り組んだらよいこと、全体で取り組むことをはっきりさせていく。	○目指す教師像の共有を図ったり、交流したりすることで、お互いの学びの目的を明確にする。また、短時間の必要感のある研修報告や終礼の時に自己の学びやICTの取組を紹介するアウトプットの時間をとり、各自のスキルアップに努める。
3	（考える子・わざをみがく子）②確かな学力の育成	**＜「学びを楽しむ」授業づくり＞** ・子どもが目標達成する授業 **◎学校研究の推進による授業改善。** ・組織的なGIGAスクール構想の推進	授業改善の推進のため、学期ごとに重点取組を決めて共通実践を図り、校内研修の充実を図る。	【満足度指標】 教師はゴールの姿を明確に持ち、「見通し一つながり一達成感・有用感」を柱に授業設計の工夫をしている。	ねらいが明確で、学ぶ楽しさが生まれる授業づくりに取り組んでいる教師の割合の割合 A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満	主担当：研究主任 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	A	100%	69%	31%	0%	0%	□1学期に比べ、A評価の割合が高くなり半数以上の職員がA評価となった。2学期の重点取組である「つながりある授業設計の工夫」の実施に向けて、まずは教職員間での「つながり」のイメージと具体的な児童のゴールの姿の共有を図った。また、児童の変化を教師自身が実感していけるよう各月ごとのつながりのある姿のふり返りや授業交流週間での各自の学びのふり返りの充実を図っていったことが、授業改善に向けた意識の向上につながっていったと思われる。 ◆次の学年に向けての確実な学習内容の定着と学びに対する達成感や有用感の充実を図っていく。	○3学期の重点取組である「次の学年に向けての確実な学習の定着」に向けての共通取組を学期はじめに共有する。学習の系統や各学年の指導事項の確認と把握を行いながら達成感や有用感を味わえる授業設計の工夫を図っていく。また、単元のはじめのつけたい力の共有と、単元末の充実したふり返りも共通実践として行っていく。
4		**＜基礎的･基本的な知識･技能の確実な習得＞** **◎本時の目標で貫かれた授業実践。** ・パワーアップタイムの有効活用。 ・家庭と連携した学習習慣の確立。	基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけさせるために、本時の目標で貫かれた授業を実践する。	【成果指標】 児童は単元末テストにおいて、国語科・算数科の知識・技能に関する基礎・基本を定着させている。	国語・算数単元末テストの知識・技能が8割以上の児童の割合 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：教務主任・学力担当 評価方法：得点集計 実施時期：7月、12月	A	90.0%	国語 88．8%（89．4%） 算数 91．2%（91．8%） 2教科 90．0%（90．6%）				□国語科に関しては、学年によって定着に大きく差がある。高学年においては、1学期よりも定着した児童の割合は高くなっている。内容量が増えてもくり返し習熟させることで向上がみられた。 算数科に関しては、計算ドリルや算数の力を使って、くり返し基礎基本の定着を図られていた。 ◆漢字・言葉の定着に課題が見られる。10問ミニテストでくり返し習熟を図り漢字定着テストを行ってきたが、定着に差が見られた。	○新出漢字の学習は早めに終え、学年のまとめとして計画的に復習していく。漢字定着テストのみならず、普段（作文やノート）から習った漢字を使うことで漢字の定着を図っていく。算数では、授業の終わりに、本時の学習が定着するよう適用題・活用題などの問題に取り組む時間を確保する。　　算数科の知識・技能の習得の向上を目指し、年度当初に算数科の授業スタイルの提案を行い、実践していく。
5	（きれいな心の子）③豊かな心の育成	**＜道徳授業を中心に教育活動全般を通して道徳性を育成＞** **◎教育活動全般にわたっての3つの心の意識化。** ・読書週間の定着（質と量の向上）	児童の道徳的心情（3つの心）を養うために、道徳の授業と学校行事を関連づけて指導する。	【満足度指標】 児童は授業や学校生活の中で3つの心を伸ばそうとしている。	道徳の重点項目において3つの心を伸ばせた児童の割合 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：道徳教育推進教師 評価方法：道徳アンケート 実施時期：学期に1回	A	94%	55%	38%	4%	1%	□授業や学校生活の中で3つの心を伸ばそうとしている児童の割合は、94％であった。さらに、中間ではA<Bであったが、期末評価ではA>Bとなった。2学期は運動会など行事も多くあり、3つの心を意識する機会が多かったため、3つの心への意識が高まったと考えられる。 ◆行事や大きな学習が無いときには、3つの心への意識は低くなっている。	○さらに児童・教員ともに意識を高めるために、児童の実態把握の結果より観点を絞り、恒常的に道徳に関わりを持てるような取り組みを実践する。　　そのために、議論する授業づくりの研修を行い、よりよくしていくための自分自身のふり返りを充実させていく。
6		**＜自己有用感の高揚と居心地の良い学級づくり＞** **◎**生徒指導の三機能を生かした授業、行事。 ・明るいあいさつや思いやりのある言葉使い。	毎月月末に行うセルフチェックアンケートから生徒指導の三機能に関する重点項目を決める。その項目を達成するための手立てを提案し，職員間で共通理解し，授業や各行事に活かし，自己有用感を高め，居心地のよい学級づくりを進める。	【満足度指標】 学級活動や縦割り活動、全校行事に積極的に取り組んでいる。	学級活動や縦割り活動、全校行事に積極的に取り組んでいる児童の割合 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：生徒指導主事 評価方法：児童アンケート 実施時期：7月、12月	A	93%	52%	41%	6%	1%	□2学期は運動会や川小まつり，普段のそうじもたてわりそうじを行えたこともあり，昨年度に比べて行事に参加しているという意識が高まった。なわとび旬間では高学年が低学年に教えている姿が見られるなど，行事によって学年間での関わりが増え，他学年のよいところをまねようとする姿が見られた。 ◆高学年を中心に自分たちで考えて行動する力をもっとつけていく必要がある。	○6年生を送る会では，各学年に応じためあてをもって取り組む。クラスで話し合ってめあてを決め，児童が主体になって取り組めるようにする。また，決めためあてに対してふり返りを行い，次につながる自主性を育てていく。次年度は、児童会活動や縦割り活動を充実させ、自己有用感を高めていく。そのため、児童会活動、委員会活動が主体的な活動となるように教職員で共通理解を図り、進める。
7	（たくましい子）③健やかな体の育成	**＜体力･運動能力の向上＞** **◎スポーツテストによる課題の克服を通した健やかな体の育成。** ・けが防止教育の推進。	脚力と持久力の向上を図るために、年間を通じて縄跳び運動の奨励を行う。 ・なわとび旬間：1学期、技 2学期、回数 3学期、8の字 ・通年：いしかわ縄跳び検定	【成果指標】 学期ごとに、学年の縄とびの目標を決め、達成できた児童の割合が80％以上になる。 ・回数　・取り組んだ回数　・技	各学期に、学年の目標を達成した児童の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：保健主事・体育担当 評価方法：なわとびカード 実施時期：6，11，1月	2学期 C 3学期 A	67% 100%	1年　63% 2年　77% 3年　47% 4年　68% 5年　50% 6年　84%				□昨年度よりも児童が積極的に取り組む姿が見られた。体育委員会の動画や掲示での取り組みが効果的だった。 ◆全体的に後ろ跳び系が苦手であることから、技の達成数が伸びない。また、全校で系統的な指導が十分でないため、その学年によって得意不得意の差がある。また、技能が積み上がってきていないことも技の達成の伸び悩みにつながっていると考えられる。 □3学期は、異学年交流の中で8の字跳びを行った。応援の声かけやポイントの声かけがあり、お互いに意欲が高まり、目標とする回数をどの学年も超えることができた。	○取り組みの内容を再検討し、本校児童の体力の課題に合ったものにする。さらに、たてわり活動と合わせることで児童の意欲向上を図る。なわとびの技に関しては、各学年で年間に達成したい技を系統立てて決める。なわとび旬間の目標は大きく変えず、年を追って経過を見る。児童発信の啓発は引き続き積極的に行う。今年度の体力テストの結果、立ち幅跳びや上体起こしの能力に課題が見られた。体育の準備体操に必要な運動を継続して取り組んでいく。また、意欲の向上や継続のため、委員会活動や縦割り活動を効果的に行っていく。
8		**＜健康教育の充実＞** **～望ましい生活習慣の確立～** ・心の健康を重点とした保健指導の推進。 **◎家庭と連携した早寝、早起き、メディアの時間の取組。**	生活を見直したり、メディアを使う時間をうまくコントロールしたりする力を養うために、アウトメディアの取り組みで、自分の決めた目標の達成をめざした取り組みを行う。	【成果指標】 各取り組み期間で自分の決めたアウトメディアの目標を達成できた児童の割合が80％以上になる	各取り組み期間に目標を達成した児童の割合が A:80%以上 B:70% C:60% D:60%未満	主担当：保健主事・養護教諭 評価方法：アウトメディアの取り組み用紙 実施時期：5．7．12月	B	70%	1年　92% 2年　85% 3年　73% 4年　63% 5年　47% 6年　73%				□5月や8月よりも積極的に取り組む姿が見られた。保護者と決めるアウトメディア利用時間で「1時間未満」がどの学年も増えた。学校保健委員会が効果的だった。 ◆何種類ものメディア機器を使用している児童においては、それらをトータルした使用時間が長い傾向がある。メディア機器を使わない余暇時間を楽しく過ごす方法が分からず、メディアを使用する傾向がある。	○冬休みの取組結果を分析し、次年度の取り組みにつなげる。また、保護者への啓発については、、1学期に非行被害防止講座、2学期に学校保健委員会を参観日に開催し、学校と家庭とが連携してアウトメディアに取り組めるようにする。また、月1回ノーメディアデーの日を設ける。川北町全体でアウトメディアの意識が高まるよう、小中で連携しながら取り組みを行っていく。
9	（信頼される学校づくり）⑤家庭・地域との連携	**＜地域人材の活用によるキャリア教育の充実＞** **◎各教科、総合的な学習の時間等による積極的なゲストティーチャーの招聘。** ・ふるさと教育の取組。	地域のよさを知り、児童が夢や目標をもつキャリア教育を充実させるために、特別活動や各教科で年間2回以上ゲストティーチャーを活用した授業を行う。	【成果指標】 ゲストティーチャーを活用して、夢や希望をもつ授業を行っている。	年間2回以上ゲストティーチャーを活用して、将来の夢や希望をもつ授業を行った学年の割合 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：手取川プラン委員 評価方法：実施記録 実施時期：7月、12月	A	100%	1年　4回 2年　4回 3年　4回 4年　6回 5年　4回 6年　4回				□どの学年も各教科や総合的な学習の時間に2回以上ゲストティーチャーを効果的に活用し、地域のよさを知ったり、児童が夢や目標をもつ内容の学習を行った。 今年度は、4年生でのあすチャレ、6年生での味覚の1週間のように新たなゲストティーチャーを活用した学習にも取り組んだ。	○今年度のゲストティーチャー一覧を作成し、今後継続するか吟味したり、新たに必要な人材を探したりして次年度の取組に活かしていく。将来の夢や希望につながるようにめあてを明確にして実施する。
10		**＜情報の収集と発信の充実＞** ・学校評価委員会等のご意見による学校改善の推進。 **◎学校ホームページや各種おたよりによる教育活動の発信。**	学校関係者評価委員の意見を取り入れた改善を進めるとともに、学校ホームページや学校だより等による教育活動の発信を充実させる。	【成果指標】 学校ホームページや学校だより等により、学校の教育活動について保護者が理解している。	「家庭への情報連絡や提供が積極的に行われている」と回答した保護者の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：保護者アンケート 実施時期：7月、12月	A	95%	41% （53）	54% （47）	4.3% （0）	0.5% （0）	□中間評価より、A評価が増加し、CD評価が減少している。今年度は、制限はあったが、授業参観、学級懇談会や学校保健委員会など、保護者を交えての取組があり、学校の様子がより伝わった。また、ホームページやお便りにおいて伝わった部分がある。また、CD評価が減少したのは、個別に連絡をとり、情報共有したからだと考える。　◆CD評価の方が少しいるので、悩んだり相談したりしたい方がいると思われる。	○いいことも悪いことも事実を伝えるようにし、保護者との情報共有を丁寧に行いながら進めていく。担任の考えや思いが伝わるように、学級懇談会やお便りを今後も利用していく。また、育友会と連携し、情報や意見を頂きながら、充実させていく。